

平成30年度生野区区政会議 第2回まちの未来部会

1 開催日時

平成30年10月30日（木） 18時58分～20時48分

2 開催場所

生野区役所 5階502・503会議室

3 出席者

（区政会議委員） 7名

川上委員、服部委員、和田委員、山本委員、亀田委員、田中委員、伊藤（千）委員

（生野区役所） 10名

山口生野区長、深見副区長、中村地域まちづくり課長、橋本企画総務課長、岩本窓口サービス課長、清水区政推進担当課長、大西都市整備局生野南部事務所長、山戸地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長、杉本企画総務課長代理、戸川企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

（1）平成30年度生野区の取組みの中間振り返りについて

資料1 平成30年度の生野区の取組み・中間振り返り
：まちの未来部会用抜粋分

（2）その他

参考資料1 前回の部会でいただいたご意見・ご提言（要約）と区の考え方、対応

5 会議内容

○川上部会長

こんばんは、部会長の川上でございます。

ただいまから、平成30年度第2回まちの未来部会を開催します。区政会議は地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが区役所と一緒にあって、意見を述べる場となっております。部会が出された意見は全体会議において報告し、共有することとなります。その中でこの部会は生野区のまちの魅力や地域活性化などについて、有効で活発な議論が行えるように意見交換を進めていきますので、皆様、よろしくお願ひいたします。

それでは開催に当たりまして、山口区長、ご挨拶をお願いいたします。

○山口生野区長

皆さん、こんばんは。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今回は第2回まちの未来部会ということで、今年度の取り組みに関しまして中間的な報告でありましたり、また新たに今年度入ってから予定していたものもあれば、取

り組んだものに対してご説明をさせていただきたいな、と思っております。

また皆様にはそれぞれの地域やまちの中で、まちって生き物やな、って思うんですけれども、気づいた変化でありますとか、こんなまちになったらいいな、というような思いをまた酌んでいただいてここで意見交換をしていただければうれしいなと思っております。今日はどうぞよろしくお願いたします。

○川上部会長

どうもありがとうございました。

それでは議事に入るに当たりまして、これからは学識の委員であります近畿大学の田中委員に会議の進行等をお願いしたいと思っております。田中委員よろしくお願いたします。

○田中委員

そうしましたら、部会長からご指名いただきました田中でございます。これから会議の進行をさせていただきますので、皆様どうぞよろしくお願いたします。

それではお手元の会議次第に沿いまして、議題1の、平成30年度の生野区の取り組みの中間振り返りについて、ということで区役所のほうからご説明お願いたします。

○中村地域まちづくり課長

こんばんは、地域まちづくり課長の中村です、いつもお世話になっております。

私のほうから、資料1というところから説明させていただきますが、途中で説明者を交代しながら全体の説明をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

では、座って説明させていただきます。まずお手元の資料ですけれども、1ページ右肩に資料1となっているパワーポイントの資料ですね。こちらのほうをご覧くださいまして、次の2ページ目に目次がついておりますけれども、1-1から4までと、私のほうは1-1から2-2まで説明させていただきますので、よろしくお願いたします。

それではまず最初に、右肩のほうに①と書いております。1-1、ものづくりの伝統を守り、受け継がれるために、ということでこちらのほうの取り組みの進捗状況ですけれども、ものづくり百景ですね。この場でもいろいろ説明させておると思いますが、現在71社ですが、それに6社追加してと。100社目指してなんとか早急にですね、できるだけ早い時期にはなんとか100、実際の百景を完成させたいと思っております。実際祭りやイベント等ですね、この百景をパネル展示するなど、広く発信しているところです。

またこちらのほうのものづくり教室、生野工業高校と共催での開催ですが、こちらのほうには34名のお子さんが参加されまして、生徒が丁寧に技術やものづくりの楽しさをこどもたちに教えて伝えており、こどもたちもでき上がった作品に満足するような状況でございました。この生野工業高校生を対象としたインターンシップなんですけれども、業績目標としましては参加者10人以上を目標としておったんですが、結果3名と低調に終わってしまいました。対象が2年生のみになってしまったとかですね、あるいは授業実施日がハローワークのインターンシップの日と同じ日にな

ってしまったとか、いろいろな要素が考えられるんですけども、実際に参加した生徒、受け入れていただいた企業さんからは好評いただいております。来年度も時期とかですね、できるだけ参加しやすいような形をつくりまして実施したいと考えております。次の2のところに業績目標、さっきのインターンシップの話もありますけども、ものづくりのページ。それから業績目標ではインターンシップだけとなっておりますけども、工場見学ツアーとかですね、そういったものも考えていきたいなと思っております。

課題とここで挙げておりますけれども、やはり少子高齢化というところ。製造業に就職する方が少なくなってきた雇用確保が困難だと。それから後継ぎの問題ですね。ですから仕事がありながら廃業するということもございますので、こういった若者のものづくり離れですね、こちらのほうをどうしていくかというのが課題で、そのために、小中高生、小さいころからイベント開催して、ものづくりの楽しさや大切さを知ってもらう、ということで将来こういうものづくりに携わりたいという若者や優秀な従業員の確保につなげていくことが必要だと考えております。

今年度は中高生を対象とした芸術性の高いものづくりに対するワークショップ等々も今年度やっていくという予定になっております。

続きまして1-2、空き家の利活用による新たな魅力づくりということで、今年度ちょっと別のほうで開催しております、まちづくりに関するセミナーですね。これ6回、既に3回開催しておるんですけども、年末までに、また後ほど最後にまた資料とかチラシをお配りしたいと思うんですけども、年末にも11月の15日と20日の日に2回開催、で年末までもう一回ということで、残り3回を開催したいと思っております。空き家も使ったいろいろな地域の活性化、まちづくりという観点でのセミナーとなっております。こういった中のそれに、さらにですね。空き家の活用事例ですとか相続などの権利関係ですとか、空き家の相談先を知ってもらうような。そして新たな空き家を生み出さないためのセミナーの開催も検討しています。

今年度より広報紙のほうに、8月末に4回となっておりますけれども、空き家の活用事例紹介ということで、生野でリノベということで広報紙に連載記事を載せています。実際に空き家の活用で地域の活性化に貢献いただいている方と、伊藤（千）委員が1回目ということで載せていただいておりますけれど、こういった形でやっていって、こういうものを見ることによって空き家を活用したりとか、そういった機運をまた高めていきたいなというふうに考えております。

次の4、見ていただきますと、課題は毎回言っておりますけれども、空き家の増加しているのが、言ってみますとコミュニティの衰退ですとかまちの魅力低下となっていくと。長屋のほうでもですね、これは住みたいとか、かなり人気はあるんですけども、なかなか不動産市場に出てこないというふうな状況もございますので、こういうふうなこと、空き家オーナーが、借り手がないとか何をしたらいいかわからないといった理由から空き家のままにしている事例もございますので、こういったものをうまくマッチングできていけばというふうなことで、地域住民の皆さんが主体となって取り組んでいる空き家活用プロジェクトというのがございまして、空き家カフェというところまでできるだけ繋いでいけるように、またそちらのほうに

可能な限りの支援ができるように、さまざまに検討しているということで、特に空き家のオーナーさんをいかに探し出していか、というのがとりわけ重要であると考えております。

続きまして右肩に5と書いているところの2-1、地域活動協議会（まち協）への支援ということで、地域まちづくり協議会が自律的な活動を進められるように補助金を交付して財政的な支援を行っております。これは協議会が行う公益性のある活動に対して活動内容を限定せずに交付するお金ということで、運営の必要な経費もあてることができる。今年度予算枠は3,217万4,000円と昨年と同額となっております。補助率についても昨年同様に活動費は75%、運営費は100%になっております。

次の6枚目を見ていただきたいんですが、こちらの今の課題というのは地域コミュニティの活性化というところになってきますと、この地域まちづくり協議会がですね、地域の実情に応じてどういった具体的な活動を企画支援できるかということ。これの支援というのが今後の方向性もございしますが、発足して5年が経ちまして地域まちづくり協議会と中間支援組織、区役所が一体となって取り組んできた結果として、多くの地域で地域の方自らさまざまな運営をしていただいている、というふうな状況になっていると思います。

続きまして、2-2、地域活動協議会の自律運営促進について、ということで、補助金の交付だけではお金だけ出してノウハウとかそういったものがなければだめなので、新たな地域コミュニティ支援事業という形でいわゆる“まちづくりセンター”ですね、中間支援という形で支援をしております。各まちづくり協議会の事務局機能の充実ですとか、担い手確保、さらなる充実に向けたところも進めるとともに、組織面でも、基本的な面から一歩進んで担い手育成ですとか、さまざまな地域活性による取り組みの支援などを、新たなステージに向けた支援を中心に行っていると、いう状況でございます。

そして、8枚目のところにも課題がございしますが、やはり地域まちづくり協議会の事務局機能の充実ですとか、担当といいますか、担い手の高齢化などでより新たな担い手の確保が急務となっている。こういった中で中間支援組織の支援のもとにさらなる自立に向けての取り組みをしていくということが、重要となっております。

今、こちらにありますようにまちカフェですとか、まちづくり発信動画、こういった形での支援もしておりますし、助成金の情報提供とかですね、そういったものも中間支援を通じてやっているというところで、地域の皆さんと区役所、中間支援組織が一体となってよりよい地域運営ができるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

それでは次の説明のほうにまいります。

○清水区政推進担当課長

それでは続きまして、区政推進担当課長の清水でございます。着席してご説明させていただきます。

まず私のほうからは9ページから12ページまでご説明させていただきます。まず初め、3-1「生野の魅力」の発掘・浸透、でございます。

生野区が持続可能なまちになるよう、生野区のまちの魅力を効果的に発信するとともにまちにある様々な資源を魅力の1つとして見出していく。そしてそれらの魅力が、区の明るいイメージとして区の内外に浸透していけるよう、そういった積極的な取り組みを進めております。その取り組みのひとつとしまして、区の広報紙を今年の5月ごろからデザインを一新し、区民の方により見やすくわかりやすいものに仕上げるように努めております。

また、その中で毎月テーマを変えた特集記事を設けまして区民の皆さんに大切な情報、伝えたい情報をご紹介します。さらに空き家の活用の事例、お近くにお住まいの外国人のご紹介、ものづくりの方のご紹介といった3つのテーマで連載記事もご紹介しております。

また広報紙以外にも毎日T w i t t e rによる情報を発信したり、定期的にブログでまとめた情報を発信するなどいろいろな媒体を活用しまして、さまざまな角度からお届けするように努めております。ブログの中では生野区のブログがチームいくみん通信というものがございまして、そちらには区長のブログのほかに広報紙の特集や連載記事の続きを詳しく丁寧にご紹介したり、イベントや人ともものご紹介なども行っております。

一方で行政だけではカバーできないところがございますので、ここは官民連携で生野区のシティプロモーションを進めていこうと、民間のさまざまな立場の方がご参加いただきまして、全体でのオープン会議やテーマに応じた専門部会を随時開催し、ともに生野区の魅力づくり、魅力発信に取り組んでおります。その一つとしましては、本日お配りしております「居場所」と「持ち場」のあるまちへ、という1枚の紙をご覧くださいませでしょうか。こちらが生野区まち情報サイト、「いくのぐらし．c o m」。これを10月のいくのこの日、19日に開設いたしました。こちらは官民連携のオープン会議から生まれた生野区の魅力発信サイトです。オープン会議では区内のイベントや情報発信のあり方をどうしていくべきか、これまで延べ160人以上の方たちがご参加いただいて話し合い、その中で生野のまち情報がまとまったサイトがない、ということから官民連携でウェブサイトの作成を行うこととなりました。

このチラシの、いくのぐらしというロゴが茶色い文字で下から3行目にあるんですけども、このいくのぐらしというロゴの上に、「なつかしい未来をつくる」という小さい文字がございます。このフレーズは生野の持つ古きよき空気を大事にしながら未来に向けて課題解決をするまち、という意味を込めて会議の参加者の方が議論を重ねてつくっていただきました。

また、このサイトでご紹介していくコンテンツの取材や執筆を担当していただく方としては、いくのなライター養成講座を、これは区長が講師にもなっていたものですけれども、このいくのなライター養成講座を実施しまして、現在約10名のライターの方によるチームを編成しています。今後はグルメ、イベント、商品紹介、生野区の小ネタやユニークな人のご紹介など、書き手の個性に応じたテーマで情報発信を行う予定です。本日お集まりいただきました委員の中にもこちらのライターになっていただいている田中委員、伊藤（千）委員もいてくださいます。ぜひ

一度ご覧いただきまして、関心のある記事などございましたら、ぜひ近くにいらっしゃる方、周りの方に広くご紹介していただければと思っております。

またもう1つ、本日お配りしております、「やさしい日本語」から、つながろう、という黄色いチラシ、そしてやさしいにほんご、という丸いステッカーと、やさしいにほんご話します、話してください、という2色の缶バッジがお手元に置かせていただいております。

こちらなんですけれども生野区の魅力の一つであります、約60カ国の外国人の方、お住まいになっておられるこの多国籍なまちで、やさしい日本語をコミュニケーションの1つのきっかけとした、コミュニティづくりをしていこうという取り組みでございまして、やさしい日本語での会話をしていただける方。この、話しますと、話してください、という2つの意思表示。こちらをシンプルな一目でわかるデザインにして缶バッジやステッカーを製作いたしました。こちらのほうですね、ステッカーにつきましては、やさしい日本語でおもてなしをしてくださる、協力してくださる店舗を現在募集中でございまして、こちらのほうですね、これから生野区から缶バッジとともに、生野区から大阪中、日本中に広がってほしいという願いを込めて、この趣意書をつくっております、あわせてこれからたくさんの方にご覧いただき、ご協力いただきたいと思いますと思っております。

続きまして3-1、11ページなんですけれども、課題について、でございますが、課題といたしましては、この生野の魅力を発信し内外に浸透させていくことが必要、こちらにつきましてはある程度の期間が必要でございまして、生野に住んでおられる方が、区の魅力や子育て層が移り住みたいと思っただけのような情報、若い方が訪れたいような情報の発信を今後も継続して強化してまいりたいと思っております。

今後の方向性ですけれども、先ほどの、いくのぐらしでの、さまざまな情報の発信ですとか、さらにシティプロモーション戦略をこれからもどんどん広げていきたいと思っております。これらの取り組みについては継続的に、そして発展的に続けていくためにも委員の皆さんからのご意見を伺いながら創意工夫を重ねてまいりたいと考えております。

次に12ページ、3-2、区民のわがまち意識を育てる、についてでございます。先ほどの生野区の魅力の向上と定着のために区に住んでおられる方が自分のまちに対して愛着や誇りを持つシビックプライドというわがまち意識を醸成していく必要があります。そのために区役所といたしましても、毎月19日をいくのの日として、生野区を盛り上げるための取り組みを行っていただいている区民の皆さん、団体の活動をご紹介したり、広報の支援など区民の盛り上がりを側面から支援しているところでございまして、このように生野のまちづくりに区民の皆さんが積極的に参加して下さっていることを発信し、区民のまちづくりへの一体感の醸成につなげていきたいと考えております。

続きまして13ページ、区民のわがまち意識を育てる、についての課題でございますが、生野区民1,500人を対象としたアンケートによりますと、生野区はさまざまな人々が訪れ、住みたいと感じられるような魅力あるまちだと感じますか、といっ

た問いかけに対し、否定的な回答が過半数を占めておりました。まだまだ区の魅力や明るいイメージの定着には時間もかかり、さまざまな課題もあるものと認識いたしておりますが、今後とも課題を踏まえた取り組みを継続して、また発展させていくように努めてまいります。私からは以上でございます。

○岩本窓口サービス課長

続きまして窓口サービス課長の岩本です、よろしくお願いいいたします。私の方からはページ⑭、⑮についてご説明をさせていただきます。座って説明をさせていただきます。

(4)のオリジナル婚姻届、という項目がございますが、大阪市では結婚という人生の節目を迎えるお二人をお祝いをするときにもお住まいの区に一層の愛着を持っていただくため、各区でオリジナル婚姻届のデザインを募集いたしました。なお、東淀川区におきましては既にオリジナル婚姻届をつくっておりますので、今回23区での募集となっております。生野区への応募につきましては、生野区だけの申し込みが12件、それと全区オーケーという申し込みが65件、合計いたしますと77件の応募をいただきました。応募いただいた件数につきましては区の中で4番目の多さとなりました。このように応募作品が大変多いことからですね、まず区役所で予備選考を行いました後に、5件程度の作品につきましてまちの未来部会委員の皆様にて、11月の下旬ごろに作品を郵送させていただきます。部会委員の方々に郵便で投票をしていただきたいと思いますと考えております。そしてそれによりまして候補作品を決めてまいりたいと考えております。

なお、投票につきましてはお送りさせていただいた作品のうち、1位と2位と3位といった順位づけをしていただければと考えております。下のページ10枚目のスライドをご覧ください。投票していただいた後のスケジュールでございますが、委員の投票、委員の皆様にご投票していただいて集計した結果、1位となりました公募作品につきましてはですね、国の法務局において問題がないかという確認をさせていただきますと思います。法務局におきまして問題がないと判断されれば、生野区のオリジナル婚姻届のデザインとして採用させていただく予定となります。なお、仮の話ですが1位の公募作品がもし法務局で問題があるとされた場合は2位の公募作品を繰り上げて法務局への確認を、依頼をいたします。こういったプロセスを経まして法務局への確認の依頼をいたします。こういったプロセスを経まして平成31年の1月に、生野区のオリジナル婚姻届のデザインを決定しホームページで公表をさせていただきますとともに採用されたデザインの応募者に対しまして区長から感謝状の贈呈を予定しております。3月ごろにはオリジナル婚姻届の表紙を準備をいたしまして、また区のホームページにも掲載して婚姻届としてご使用いただくことが可能となる予定というふうに考えております。説明は以上でございます。

○田中委員

ありがとうございました。

そうしましたら、ただいまのご説明について委員の皆様、何かご意見とかご質問などございましたらお聞かせいただけないでしょうか。その際にご発言いただく際には挙手の上、お名前を述べていただきますよう、よろしくお願いいいたします。

はい、そうしたら亀田委員お願いします。

○亀田委員

亀田です。先ほどの（４）14ページ、15ページの婚姻届のデザイン募集のほうなんですけど、例えばこの婚姻届ってオリジナルデザイン、いろいろよそでもありませんけれども、これ婚姻届提出した後って、ようは手元に残らないじゃないですか。あれは、これオリジナルでつくるのはいいんですけど、せっかく記念になるんやから返送とかできる方法とか、例えば写しを逆にこのオリジナルデザインで送り返すとかいうようなことを考えるほうがいいような気もするんですけどもどうでしょうか。

○田中委員

ありがとうございます。何かあの、それに対してお願いしたいなと思いますが、ございますか。

○岩本窓口サービス課長

今、特にデザインのないオリジナル婚姻届になっておりますので、特に複写式というわけではないので、お手元に何かお返しするという形にはなっていないんですけども、今の若い方ですので、例えばの話なんですけれどもスマホ等で写真におさめられて残されるのではないかと、思っておりますものでちょっと今、委員からご指摘いただいたようなことは考えておりませんでしたので、ちょっと複写になるとまた少しお返しするというふうなことも含めると、少し複雑になる部分は出てくるのかな、と考えております。

○亀田委員

あの、個人的ですけど僕も婚姻届、3年前かに出したんですけど、要はその、いろいろゼクシィとかについてる分できれいなものを書くのはいいんですけど、出したら帰ってこないんで、せっかくオリジナルや言われても手元に残らないのはちょっと寂しい部分があるんで、なんかそういう対応とか、例えばちゃんと受け付けました、みたいな返送の書類をオリジナルに、一部のまた送り返してくれはる、みたいなデザインのあるやつにさせていただくというのもありなのかな、と思った次第でございます、以上です。

○田中委員

ありがとうございます。とても重要なご指摘だと思います。手元に残ればそれを見返して、別れるということもないかもしれないですので、本当にご指摘ありがとうございます。ほかに何かご質問ございませんでしょうか。

例えばこちらのほうに課題とか、それぞれの施策で課題などとか、今後の方向性というようなものが書かれていると思うんですけども、そういったところでも、課題、もっとこういうところが大事やで、とか今後の方向性についてももう少しこういうふう考えたほうがいいんじゃないか、というご意見とかございましたらお話しいただければと思います。

先ほどの婚姻届の件はよろしいですか。

はい、お願いいたします。

○川上部会長

はい、川上です。これは皆様のご意見もちょっと聞きたいということなんですけどね。今、まちづくりの件でまちづくり協議会として地域で行事を行っておりますけれども、確かに外国の方が多いいということで、なかなかなじめない状況があると思うんです。私の北巽におきましては行事、イベントをいろいろやっておるんですけれども、実際まちづくり協議会で行う場合は町会に入っていない皆さんも地域におればみんな一緒に参加してお呼びしましょうということでやっておるんですけれどもね。去年から日生学園の留学生を交えてやっておるんですが、なかなか難しいところがあるんですよ。

今回もスリーアイズ大会をやりまして。そうすると結果参加したのが35チームになったんですね。去年のほうももっと多かったんですけどね、35チームのうち、学園の生徒さん10チーム来てもらったんですよ。私が10チームくらい出して、ということで町会ももっと参加してもらえと思って52チーム目標、いけるんじゃないかなと思って検討してたんですけどね。結果35チームということで、まあ3分の1ですね、学生に入ってもらった結果になったんですけど。結果が、優勝したのが留学生なんですね。そうしたら、あとの反省の場でやはり、みんなが趣旨はわかっているながらやっぱり町会のほうに賞品が行ってほしかった、という気持ちがあったみたいですね。そういうことがありましてね、僕が推薦した日生学園の生徒がようけ参加したもんですからね、町会のほうの趣旨が違うというような言い方を一部されましてね。これはそういうもんじゃなしに、もっと根本的には地域一体になってみんなで仲よくやることなんやから、やっぱり仲間と一緒に入れてほしいとか、ということをお前は言ったわけなんですけどね。半分ぐらいですかね、そういう感覚の方がいらっしゃるといのは、やっぱり自分たちの行事、町会のほうの方に賞品を分けてほしいというような。小さい考えですよ、もっと大きく心を広げてほしい、と言うんですがね。やっぱりなかなかそこへ一度にいかないですね。それ私もちょっと悩みなんですけどね。

それ以外に、この間生野の一斉パトロールございました。それにも実は約130名ほど日生学園に来てもらったんですけども、私のところでは全部まかないきれませんので一応14町会あるんですけども、募ったところが4つか5つの町会しか引き受けてくれなかった、という状態で。私のところは80名とりまして、これは近隣の巽東地域に20名お願いして、小路連合にも20名お願いしまして、巽地域に10名お願いしたんでございますね。合計130名参加していただきました。それについてもね、やっぱりそういう偏見といいますか、なじんでくれないと。で、町会で見ますとお茶ぐらいは出してくれよ、と僕は各町会長に言った訳なんですけども、町会の方は、その予算どこから出るんですか、とかいう感じになってしまっただけ。町会それぞれお茶くらいだったらなんとか出せるやろ。もう出せんような町会やったらこっちに言ってこい、ということになったんですけどね。そういう中に、私のところの町会なんですけれど、ノートもらったからおまけやということでノートをあげたんですよ。そうすると、余分なことをしたような言われ方で。統一してほしいと、各町会で。お茶ならお茶だけ、とかね。結果いろいろ出るんですね。やっぱり地域一体で一緒に輪の中に入れてほしいという、それが私は目的なんですけれども、なか

なかそれをやっていただく、わかっていただく、浸透するとか、ちょっと時間かかるのかな、と思って見ておりますけどね。皆さんそういうのにはどう思われますか。

○田中委員

同じようなことがあるようなこと、ございますかね、地域で。そういうことで。はい、お願いいたします。

○和田委員

和田と申します。勝山は桃谷駅前に、医療専門学校があるんですけど、そこの子を何人、入れたんか、ちょっと人数記憶していないんですけど、確かにこの間の一斉パトロール、外国の方もたくさん来ていただいたんですけど、我々住民にしたら何人いてどこに住んでいて何をされているかっていうのがちょっとわからないんで、いきなりこの子ら受け入れてね、では理解しづらい部分があると思うんですね。だから身元を、どこの学校に行ってどんな勉強をしてどこに住んで何年ぐらいおって、というそういう、どこの国の子とかね。そういう情報を開示すれば地元の方ももっと安心して受け入れるような体制になるのかなというのは、確かに川上委員の言われたようなことは不安があるんでね、クリアにしていく。住民の不安を取り除いていくというのを一つかな、と。こんなん言ったら差別になるかもわからへんけど、なんか悪いことするんちゃうかな、みたいな不安もあるんで、その辺の情報開示を役所がしてもらおうのかどこがやってもらうのか。やってもらえばもっとみんな安心するような気はします、以上です。

○山本委員

今、和田委員が言われた、同じところからうちも20名引き受けて、だけでも特に問題があったとかそういうのは聞いてないです。確かに情報開示、今話題になられたように細かい言葉で言うのもいいんかもわかりませんが、一つの行事みたいなものに参加する、ぐらいの気持ちでね。やっぱりそういう回を重ねていかんと、いきなり最初から何もかもうまくいくということはないと思うんですよ。我々だけの防犯パトロールといってもなかなか人数も集まらんし、そういうところに参加して、自分たちもこの場所に住んでいるんやから経験してみよう、ということで参加されたんか、先生から言われて参加されたんかわかりませんが。いずれにしても1回、2回でおそらく、特に会長のところにはたくさん行ってはりますからね。逆に私から見たらうらやましいな、思いますよ。

○川上部会長

やっぱり、どちらがね、情報開示。あんまり個人情報まで公開するのはだめですけど、やっぱりどっちが先かということはね、やっぱり受け入れ側の我々の方がね、先に手を差し伸べてやらないとなかなか入りにくいですよ。ですからそれをこっちは地元のほうを先にやろう、何とか説得しようと思って今はやっておるわけなんですけどね、ちょっと時間がかかるかもわかりませんが、ありがとうございました。

○田中委員

はい、お願いいたします。

○亀田委員

中川の方は4町会のほうに日生さんなのかちょっとわからないんですけど、寮が

建っているんですね、1つ。その寮を建てているときにもう最初からトラブル起きたら大ごとになるのは目に見えていたんで、連長さんと町会長さんと伺って町会入ってもらって、特にトラブルになりやすいのはごみ出しとか騒音系になるんで、前もってこういうふうな形になっています、いうのをアナウンスしにいたりしてはしてみたいたいなんですけれども。そのからみか、町会入ってはるということで町会の行事なんかには参加していただいていたたり、逆に町会長さんはホームパーティーみたいなのをされたときには招待されて行ってきたみたいな話は聞いたりしているんで、逆にもう最初のトラブルの元を先に考えて建ててる時代から、オーナーさんから巻き込んで町会入ってもらったら、回覧ちゃんとしてというふうなアナウンスをしっかりしていくのも一つかなというのは思いますね。

○田中委員

はい、ありがとうございます。はい。

○服部副部長

西生野の服部です。あの、今言っていたことはよくわかるんですけど、西生野にはあんまりそういう外国の方来ておられるというのは少ないんですよ。で、来てもらってやってもらおうということはわからんでもないんですけども、逆に閉鎖的になって、こちらのほうは中入らせていってもいいな、という気持ちになっていても、相手方のほうが閉鎖的になって話に乗ってきてくれない、というふうなこともあるわけですよ。皆さんいいことばかり言ってはるんですけども、もしなんか事件が起きたときにね、外国から来ている人は強制的に退去されたらそれで終わりなんですよね。ほんたら後に残ったものはどうなるねん、ということになるわけです。だから、みんなそないして一緒になっていうて言ってはるんですけども、実際問題そういうことが起きたときに、果たして、よっしゃよっしゃですむんかな、というふうな気持ちにもなるから。来て優しく話してやってもらえる人は楽しくやってもらえるけども、果たしてこの人がもし事件が起きて、事故が起きてしたときに、どういふふうになるんかな、というふうなことも心配な一面もあるわけですよ。

○田中委員

それについて何かございませんでしょうか。

あの、いろいろな課題が出てくると思うんですけども、この今日の議題の中で例えば地域活動協議会、まち協さんですね。その中での自律運営の促進とかですね、そういう中で何ができるんだろうとか、あるいはどういうふうな支援をいただければそういう課題が解決するんだろうか、というようなところを、もしご提案があればしていただければいいかな、というふうには思いますけども。

それに限らず、どうかご意見とかございましたら、いかがでしょうかね。

○山本委員

先ほどちょっと名乗るの忘れてました、東桃谷の山本です。今日のレジュメの中に防災のことが全然何もなかったんですね。東桃谷の地域では一応ずっと防災マップも新しいのも出来たし、それから第1避難所、それから本体の避難所への訓練とかそういうことも終わって、今小学校の校庭まで皆さん入ってきていただいて、私のところの町会はあそこの教室、私のところの教室、というところまで来ているん

ですよ。さて、もし何か災害があったときに、これから先ですね、どんな行動をしてどのような防災に対する行動といたしますか、訓練といたしますか、これから先どうしようということを役所のほうで計画とかそんなんがあるんかどうかちょっとお聞きしたいし、もし今日でなかったら今度の本会議のときでもいいんですけど、今ここで皆さん第1避難所から小学校に来て。で、自分たちの入るところわかりました。はて、そこから先、災害あったときに役所のほうから、いろいろな連絡があると思うんですけど、我々は起こさなあかん行動とかそういった、それと訓練とかそういうことについて、もしわかれば教えてほしいですね。

○田中委員

それは具体的に言うとどういったことでしょうかね、地域の活動協議会の何か、防災訓練のことで、ということですね。はい、じゃあちょっとお伺いします。

○中村地域まちづくり課長

地域まちづくり課長の中村です。防災の関係ですけれども、今年は非常に防災といたしますかね、地震はあるわ台風は直撃するわとか、大変なことがございまして。今まで実際に避難所を一時的に開けてとかですね、そういったことも今回初めてという状況もございまして。小学校も開けて中学校も開けてということも初めての経験でもございまして、多々混乱もございましたし、また地域の方々にはものすごくいろいろなことでお世話になったというふうな状況がございまして。今回のことを踏まえてですね、今まで我々も思っていたのは、やはり一般的には大きな地震があって避難所をつくって、そこに避難いただいて、そこで長期間滞在することになるかもしれんとか、そういったことでいろいろな計画も出していたいただいていたと思うんですけども、今回のような一時的な避難ですね。臨時的といたしますか、二、三日、一日二日で終わるような場合にどうするかとかですね。そういったことも含めて今回の実際の実験をしたということで、今週にまた地域の皆さんと一緒に反省会みたいなことをしようと思っておりますけども、その中で防災意識、我々役所がどこまでできるかというのもございまして、あと地域の皆さんが一番主体的に動いていただくというのが、一番の課題かな、と思っております。そういった中で役所がどういったことが支援できるのか。あるいは地域の皆さんがどこまで動いていただけるか。逆に自主的にどこまでやっていただけるか、というようなことを一緒に議論していけたらな、と思っております。単純に地震のときのような形だけでなく短期間の避難の場合にどういう形をとっていくのが一番いいのかと。その際に緊急の場合は地域の皆さんのお力を借りないといけないと思っておりますし、この前の台風24号のときでしたら、かなりの時間を置いたうえで避難所を開設とかございましたから、そういったときは役所もかなりの動きができますけども、台風21号のときには役所側もなかなか判断が遅くなりまして実際に開けたときには風がきつくなって避難できないという状況もございましたので、そういったことも含めた、反省した上で今後そういう緊急時の対応とかですね、そういったものをどういうふうにしていこうか、というのを地域の皆さんと相談させていただいてですね、そういった形が一番よりよいことになるのかということ、また一緒に考えていけたらな、と思っております。今お配りした分です、この前が広報紙の9月号に、ちょっとま

あうちの濱崎がふざけたような感じになっておりますけれども、地震のときの対応。これもあくまで地震の時の対応が中心になっておりますけれども、やはりこれから今回だけじゃなくて、これからは地震だけじゃなくて風水害とかいったことも緊急対応も出てくるのかな、と思います。そういった点も含めていろいろと一緒に考えていけたらな、と思っております。

○山本委員

はい、短期的なこともよくわかりました。今回の経験を踏まえて、また皆さんといろいろ議論されてということなんですが、今まで私たちがやってきたのは、長期的にということやってきたと思うんです。で、ここに書かれているようなことは当然ながら、そのあとです。私が知りたいのは校庭に集まって教室に入りましょう。そのあとは入ってどうなっていくんやろうか、と。その辺をもしわかれば、もし今でなくても次回の本会のときでもこういうふうを考えているとかいうことでも結構ですけれども。

○田中委員

はい、ありがとうございます。それに関しては何か委員の方で、はいどうぞ。

○亀田委員

あの、各連合、冊子のほうで防災の地震の時の役割。地区防災計画つくっていて、そのときに、たしか話があったとおもうんですけど。学校に集まって、さあ避難所運営です、ってなった場合は自主的に運営をとりあえず回してください。で、公的機関がなんやかんや持ってこれるのは二、三日かかるのでそれまでは何とか自前のと、置いてある防災物品で何とかしてください、となってたと思います。で、この間の台風にしても21号のとき、うち父親が町会長で体育館の避難所開設に行っていたんですけども、テレビ、ラジオが体育館に置いていない、防災庫にもなかったということで情報が全くないのでワンセグテレビ持ってこい、言われてちょうど1時過ぎか、持っていかされて行ったんですけど帰りがすごい風でずぶぬれになりながら帰ったということで。

で、その次の24号のときでしたかね、前もって先テレビ持って行って代用したという形で、やっぱり情報ソースがないと困るな、という。例えばラジオでもとりあえずコンセント式、乾電池で動く。なんか手回し発電のラジオは持ってきてたいけど、結構ずっと回しっぱなしにせなあかんかったりすると面倒くさいんで電池式にしてくれって言ってはったので。そんなんとか、結構まだ笑い話で済んでいるんですけど、そんなんいろいろ結構出てきてはありましたので、またそういうのも役所に上げていってもらえればと思います。

○山本委員

今おっしゃっていたとおりのやと思うんですが、長期に対して運動場に集まりました、あとは地域が自分で考えてやらなあかんことじゃないかな、ということなんですけど。それは確かにそのとおりのなんですけど、今まではいろいろな知恵とかアイデアとか出していただいて訓練、そこまで来たわけです。果たして、じゃあここから先はやってください、ということ。特に私は感じますけれども、うちの地域では恐らくその後どうしたらいいかパニックになると思うんですよね。ですから、そ

の辺のことは、こうこうしたらいいとか、こういうふうにしていったら言うようなアドバイスも防災の担当者に言って。これも絶対訓練が必要だと思うんです。今まで一時避難所、それから小学校っていうのは2、3回やってきてますからある程度皆さん慣れてるけど、そこから先のことは何も今まで訓練やったことないんですよ。だから実際教室に上がって、誰がどういう指図して、とかそういうふうな訓練も、こんな言い方したら悪いですけど、地域にほっておいて地域でやってくださいって言うてもなかなか、私が見ている限りでは難しいと思うから、その辺は一度役所のほうがリードをとってですね、みな約束決まってるわけですからね。そういうことで、そういう訓練をするようにリードしてあげたほうが、せっかく今までのもんが実際に大地震とか起こったら役に立つのか立たんのか。もちろん自分の命は自分で守る、ということは皆さんだんだん浸透してきてます。私もしょっちゅう言っているんですけど、役所からは何もしてもらわれへんよ、と。濱崎さんいつも言ってるけど、私は3%しかできひんと。あとは皆さんが、自分自身がやるとか、お隣とか地域だとかいうお話をしょっちゅうされてるから、それは浸透してきてます。ただ、今も言いましたように、集まってそこに入ってその後のそういう訓練も一度、役所のリードでリーダーたちに伝えて、どうしたらいいのか、ということも含めてですね、これから1年に1回でもやるほうがいいかな、と思います。

○田中委員

はい、ありがとうございます。この前私もまちづくりセンターが主催しているまちカフェというところに参加しまして、防災シミュレーションゲームというのを、ちょっとやらせていただいて、参加させていただきました。そのゲームは神戸市の消防局が提供している。そういうゲームなんかもやらせていただいて、いかに自分が自分の考え方だけで動いているかということを再認識させていただいた次第です。そういうこともありますので、何かそういう防災訓練とかですね、そういうのがあればシミュレーションですかね、そういったものをどんどんしていただくほうがいいということですかね。山本委員がおっしゃる、こういう折に触れて。

○山本委員

そうですね、いずれにしても訓練というのはやらないといけないと思うんですよ。なぜ私が今そういうことを言ったかということ、例えば運動場に並びました。じゃあ教室に入ってください。与えられた教室に自分の町会の人が全部入れますか、入れないですよ、1つの教室に。

○田中委員

そういうキャパの問題もありますしね。

○山本委員

そういうこともあるしね。恐らく鶴橋中学使ったり桃谷高校使ったりせなあかんわけですわ。そういう訓練は一切やってないわけですわ。そこへ集まって今からあなたはあっち行きなさいこっち行きなさい、そんなこと言えないですよ。そういうことを含めてやっぱりもうちょっとしとく必要があると思います。

○田中委員

事前にとということですかね。

○川上委員

それはね、私のところはちょっとだけ進んでますけどね。実際、小学校の教室を今度何町会はどこどこ、言うて当てはめてみたんです。それでやってみるともちろん全然足りませんよね、人数は。で、今度近くの高校とか中学校とかいうのを借りられるようになったもんですから、私のところ一部そっちへ派遣して運営委員会もつくっていただいて。ですから今、私のところは1町会、2町会は大池中学に近いもんですから、大池中学のそういう懇談会の時に一緒に加わらせてもらって、運営委員も3つのところからみんな出そうということを出していただいて検討しております。

それでもう一つは10町会、9町会はその金光藤蔭高校ですね、あそこが近いからということで小路さんと東小路さん、それとうちの9町会、10町会、入って検討もしております。ですからちょっと分けていけないとね。地域で1つの小学校全部は絶対無理ですからね、そういうことで分担しております。この間小学校で訓練のときに一応実戦訓練をこれからやっていかないかんと、ですから本部設営と本部の実戦の伴った訓練を今度やろうということで、次回やるんですけどね。それと伴ってみんなの役割をちょっと決めているんです。で、リーダーを役員で決めておいて、そこへ関係の協力してくれる方はどっかに所属してもらおうと、総務部とかね救急部とかいうふうな形で全部所属をどっかに入ってください。それで実戦をやっていこうと、実戦訓練をやっていくという形に進めておりますけどね。ですからどこまで、満足できるところまでいくかどうかわかりませんがね。一応そういう形で今進んでおります。

○山本委員

今のお話はほんまに素晴らしいと思います、私もね。ただ、そういうことを決めたら地域の人があるとおりに動かない、と。経験しとかないといきなりこっち行け、あっち行けって言われてもね。ですのでその辺は確かに本当に言えば自分たちでやらなあかんことですが、皆さんもどう感じたかわかりませんが、みんなで作ってくれて言っても恐らくできないと思います。ですので、ある程度役所のほうがリードとってですね、おっしゃったようなこと、進めてほしいと。具体的にはどうしたらいいんか、とかね。今まで我々何年もかかって教えてもらったようなことをですね、ここから先のことをね、私はやってもらった方がいいんじゃないかなと思います。

○田中委員

ご提案ありがとうございます。

はい、ちょっと話題のほうなんですけれども、ほかにも空き家の問題であるとか、利活用の問題であるとか、ものづくりの問題、問題というですか提案であるとか、生野の魅力発掘等ございますので、幅広くご意見をいただければありがたいかな、というふうに思います。

はい、ほかにはいかがでしょうか。はい、亀田委員お願いします。

○亀田委員

すいません亀田です、3-1、11ページ前後ですね。いくのぐらしのホームページ

ジが出来たとかってというのが、全然僕ら知らなかったというか、この間聞くまで、という状況なんですけれども。あれ、各まち協、ブログも僕担当してますけど、事務局やっているんで。例えばメールでお知らせしてそのままコピーに載せるみたいな感じでもできればな、という気もするんですけども、各まち協に送れば、一斉に。

○中村地域まちづくり課長

それはさせていただきます。

○田中委員

出来るだけ多くの方がサイトにアクセスして、情報発信をしていただけるように、ということでしょうか。

○亀田委員

そうですね、例えば今のでしたら生野区のホームページには多分載っていると思うんですけど、僕ら生野区のホームページをすぐに見に行くこともないんで、自分のところのブログは自分で更新するんであれですけども。例えばこういうワークショップのお知らせとかでも、チラシをもらってもなかなかそれを取り込んで、次ブログに載せようとしてもスキャナーでうまいこと取り込めなかったりもするんで、例えば、取り込んだやつと一緒に送って、これブログにぜひどうぞ、みたいな感じで送っていただけたらとかいうのは、そのまま転送でブログのメールの方に送ってブログの自動送信で勝手に上げるというとか、メールをそのままブログにするという機能がブログについてたりはするんで、そういうので上げると上げやすいかな、と思うんで。逆に区のホームページじゃなくて定期的に地域の人だったらブログ見てもらったり、安まちメールをブログのほうで、中川はこのまま載せて生野区内のやつだけ上げるようにはしているんですけども、それと一緒にこういうのも上げるんでしたら上げたいな、とは思って送っていただけたらな、とかそういう情報がこちらにも知らなければ上げようがないんで。あと上げるにしてもチラシはなかなか自分で上げるの面倒くさいのでなんかデータとしていただけるようなことができるんであれば助かるな、というのがあります。

○田中委員

はい、ありがとうございます。今は区の魅力の発信というところで、発掘というところですかね、シティプロモーションの推進というところの話だったかと思えますけども、ほかに何かございませんでしょうか。

これ、どうなのでしょう。今、情報発信のいろいろな機能があると思うんです。Facebook、Twitter、ブログ、紙、こういうチラシ、それから口伝え。いろいろあると思うんですけども、皆さんどういふふうな情報発信が一番利用しやすいでしょうかね。それぞれ違うと思うんですけど、こんな工夫があればいいなという先ほどもお話であるとかがありましたら。はい、お願いします。

○亀田委員

ホームページにしるTwitterにしるFacebookにしる、まあFacebookとTwitterはあれか、まあ起動して見に行くという状況にならないとなかなか見ない。ホームページにしるそうなんですけど。例えば安まちメールみたいに一方的に送りつける。メーリングリストみたいに、とかはやらんのかな、

というふうな。ようはメールやったら強制的に来ましたで、ポンって案内、例えば F a c e b o o k とかは通知切ったりとか、T w i t t e r も通知切っていれば、入れていけばいいんですけどもうるさいんで切っているときが多いんで、僕は。メールは仕事も絡むんで音を消すことはないんで、来たらずぐわかるし単品の件名みたらタイトルだけで、後で見ようか見るまいかって選択もできると思うんですけど。そういうふうにもう自主的に見に行くほうじゃなくて受け身で情報を得られるほうが便利なのかな、というのが個人的には思います。

○田中委員

ほかに何か。

○川上部会長

L I N E はどうなんですか。

○田中委員

L I N E は皆さんどうですか、使ってらっしゃいますか。

○和田委員

いや、実はうちの連合でも L I N E でね、いろいろな避難所情報を出そうと話をしたんですけど、結構年配の方が、むしろ L I N E なんかこんなかん、ってもう却下されて結局できなかつたんですよ。まあでも何年か先にはもうちょっと L I N E される方もおられると思うんで、L I N E がグループ組んだら一番早いんで、それは必ずやろうと思ってます。

○田中委員

すごいんですね。はい、お願いします。

○和田委員

もう一点だけしつこいんですけど台風の件、いいですか。24号のとき避難所が開設されたんですけど、うち40人以上避難されたんですけど、100歳超えのおばあさんも避難されてきて、何が困ったかといったらね、トイレの介添えとか付き添いなんですね。ほんでバリアフリーのトイレが1個、もしくは2個。で、たった40人でね、トイレの介助だけでてんでこ舞いなんですよ。あの日はたまたま休みの日やったんで、手は結構あったんですけど、誰一人そういうヘルパー免許持っている人もおられなくて、とりあえず途中何をしていたかいたらトイレの付き添いだけです。これがね、40人でそれやから、仮に何百人来たらずトイレ間に合わないですよ。それがね、痛切に思って、今度勝山ではね、そういう最低限の介助の講習だけ受けようかな、っていう企画しているんですけど、もうこれがめちゃくちゃ困りました。特に女性の方ね、男性はなんとかね、連れていけたんですけど、女性のトイレはたった40人でもものすごい困ったんで、なんとかバリアフリーのトイレ、小学校も増やすとか、なんか早急に対策をお願いしたいなと思います。

○田中委員

そういう意味でも山本委員が先ほどおっしゃったように事前にちゃんとシミュレーションできてないといけません、っていうご指摘とちよつとつながるようなお話ですよ。はい、ありがとうございます。

○和田委員

しつこくすいません。

○田中委員

いえいえ、全然。この場は皆さんの意見を聞くことが大事ですので、なんでも考えたこと思ったことをおっしゃっていただきたいと思います。それで市政につなげられるものはつなげていきたい、というふうな思いだと行政の方も思いますのでなんでも。

○川上部会長

トイレの話、ちょっと追加。この間私のところで敬老慰安会をやったんですけど、そうすると1人の高齢の方がね、小学校全部和式じゃないですか。それでね、私洋式でないとだめなんですと言われて、私のところに言ってこられた。だからこれはちょっと困った問題で、なんか学校自体もちょっと改善してもらわないといかん、という感じがしました。

○田中委員

はい、ありがとうございます。なんかだんだんと今年の非常に災害が多かったということがよみがえってきて、いろいろな問題がね、今出てきたということなので、それはたくさんいろいろな地域でも出てきたと思いますよね。お手洗いの件は非常に大事なことだというふうにおもいます。

○深見副区長

副区長の深見でございます。ごめんなさい、僕、生野区来る前に教育委員会にいておまして。僕、北巽の間、寄していただいたんですけど、体育館のトイレだけやったか記憶ないんですけどね、小学校自体には1階に洋式トイレはあるはずで

○川上部会長

1カ所だけあるんですよね、それはまた奥のほうなんですね、体育館のは全然これも用ですから小さいんです、逆にね。

○深見副区長

はい、わかりました。

○山本委員

ちょっとトイレでよろしいですか。

○田中委員

トイレ多いですね、今日はね。はい。トイレ大事な問題で。

○山本委員

いい情報なんですけどね、ある時ちょっと見てましたら、トイレ。簡易トイレですね、もし長期にあればするんだったら、マンホールの上に置くトイレがあるらしいんです、下水に。それを今度また地域でもあれ買ったらいいな、思ってるんですけども、そしたら水も要らないしそのまま流れるし、そしたら簡易トイレで置いて周りをテントにするか、どうするか。まあそういう、ありましたのでこれはなかなか。そやから地域のマンホールどこにあるか調べる時はね。

○服部委員

開けるの大変ですよ。

○山本委員

いや、それはまた別の問題ですわ。それは別の問題で難しいかどうかわからんけど、誰かあけることができるでしょう。そういう情報です。

○亀田委員

今、ふと思ったんですけど、介護用品で和式便器を洋式にする、上に置くだけの、あれとりあえず防災庫に置いていただくような話のほうに持っていったほうが、山本委員が言ったみたいにマンホール開けるやつでもいいんですけど、とりあえずそれを応急的に考えるいうのもありかな、それは。介護用品でそれあったなと思ったんで。

○田中委員

ありがとうございます。いろいろね、アイデアグッズというのもたくさん防災にかかわるアイデアグッズもありますし、最近の中では歩道と車道を分ける柵がそのままきゅっと引っ張ったら担架になるとか、いろいろあるので。アイデアグッズたくさんあるのでそこはちょっと工夫していく余地があるのかな、というふうには思います。

○中村地域まちづくり課長

今、山本委員からありましたマンホールのお話ですけども、これ以前の区政会議でも多分出ていたと思うんですけども、一応あの、言っていたいた下水のほうですけども、そこが幾つかのところのマンホールをそういう緊急の場合のトイレにできるところが、例えば巽公園か巽東緑地かどっかにあったんですけどね、何個かはあるんですよ。ただ、この場合にチラッと聞いた話でうろ覚えなんですけども、落としたときに斜めか何かになってないと、下の形状が。そのまま水平になると、そのまま落ちて行ってしまったらだめなんで、そのマンホールのところが落ちたときに、斜めに落ちていけるようなところとかも全部チェックした上で、ここのでやったらできますよとかね、そんなんもちゃんと調べてくれるらしいんですよ。それで指定していくというのもございますんでね、また詳しい話は建設局のほうになると思いますけど、また確認はしておきますけども。まあそういったこともあるということでございます。

○田中委員

はい、ありがとうございます。ほかに多分、ご質問全然されていない伊藤（千）委員、何かご意見があればお聞かせいただきたいなというふうに思いますがいかがでしょうか。何かございますか。何かありましたらでいいので。無理矢理じゃなくても、またもうちょっとしたら出てくるよという話も、ありますし。

○伊藤（千）委員

ありがとうございます。そうですね、情報発信のお話ありましたけれども、私もすごくいろんな年代の方に情報を届けるってすごく難しいなと、常日ごろ思っているところではあります。やはり、情報がなかなか集約されていないから、このいくのぐらしのページ開設で、集約していきましようということやと思うんですけども、やはりそこにアクセスできる方は限られる状況はあるだろうなあというのは、個人的にもずっと思っていて、何かその辺を何か考えていらっしゃることがあるの

であれば教えていただきたいなとは思いますが。

○山口生野区長

この、いくのぐらしドットCOMの編集をやっておるので、何かこう。そうですね、まずはサイトをつくらうというところからスタートして、当然ですけど、サイトつくると拡散するためにTwitter、インスタ、またあの、ずっとFacebookのページに、生野区なんでも掲示板というのを作りまして、そこにみんなが情報をアップしやすい環境をつくったところですよ。これを紙媒体に次、桃谷ロイターのように持っていったらいいなあという、野望は持ちつつも、実はかなり編集部、人数が少ないというか、もう、生野まつりの前日、夜中3時までやってたような状況なので、結構更新できる人を今ちょっと増やして、もうちょっと簡略化したいという思いもあります。

1点、このサイトのいいところ、というのも変ですけど、スマホもタブレットもきれいに見えますので、パソコンも見えて。割と高齢の方に私、もうちょっとタブレット普及しないかな、というのは思うところがあります。まあ90代の方で実は使いこなしている人がいるとか、すごく地方の、物を買うのが厳しいような限界集落みたいなのところがあるんですけど、自分たちで共通のタブレットを使って発注、注文して買い物して、それが届くみたいな仕組みをつくったりであるとか。何かこう、使えないという思い込みをやはり取っ払っていかないといけないし、そういうためには使える人たち、高齢の方でばりばり使いこなしているよみたいの人たちを増やしていくこととか、そういうレクチャーを入れることって大事かなと思っています。

社協かな。何か今度スマホ教室を何かやるって書いてあって、すごくいい観点だなあというふうに思っています。うちの職員でもね、かたくなにスマホ持たない人とかいるんですけど。個人のこだわりはともかくとして、やはり両面ですよ。届くツール、紙とか、本当に壁新聞の世界とかね。そういったものにも目を向けながらできるものは取り込みながら、かつ、使えるものを、新しい機器を、できるだけ使いやすく、多世代でも使えるようなものにしていくっていうことを、それをまた普及したり啓発したりしていくというところ。何かうまく両輪で進んだらいいなとこれは防災の面でも思いました。

地域によっては、地方ですけれども、タブレットを各家庭に置いてあって、もう緊急時に音が鳴るとか、ニュースが出るとか、何かそういったまちもありますし、いろんな形をちょっと考えたいと。またその点は桃谷ロイターさんにも勉強させていただきたいなと思っています。よろしくお願いします。

○伊藤委員

ありがとうございます。私もいろいろ教えていただきたいのでよろしくお願いします。

○田中委員

はい、お願いします。

○服部副部長

ちょっとね、寂しい話を。あんまりしたくないんですけどね。今度の中学校一貫校のときにちょっと話ししようかなと思ってたんですけども。

まあ寂しいんですわ。林寺さんと、生小さんと、舍利寺さんと、で、西生野と田島さんと、あの、学校の一貫校の訪問を、行こうということで、来てたんですよ。私にしたら、一貫校にいずれはなると思うんですけども、それで今宮中学のほうへ行ったんですけども。

その前に、前の校長先生で、たしか、赤間先生やったかな。今宮中学は変わるよって言うて、ちょっと話は聞いてたんですけども。この間の金曜日でしたかね。今宮中学へ見に行ったんです。寂しい話というのはね、西生野から2人。校区の違う田島のPTAさんが2人。それだけです。役所から来られたんがね、7人。何を考えてんのかなと思ってね。自分とこの校区なり何なりが、それは、仕事で忙しいから来られへんのもわかるんですよ。そうやけれども、それはないでしょう。一貫校を見に、こうやってする、するって言うてるのに4人ですか。それも校区の関係のない、田島さんのとこのPTAさんが2人。西生野から2人。私とうちの連長と2人。

寂しい話ですよ。いつになったら、よその校区の人みんな見に来てもらえるのかな。私最低でも40人、まあ20人は来てくれはるかなと思って、勇んで行ったんですけど。寺田町の駅で2人待って。そのまま新今宮行って、新今宮で2人だけです。そんな話、ないでしょう。もうちょっと何とかありませんの。私今度、この間行ったとこでね、もうちょっとで爆発するところでした。本当に。そんだけ関心ないのかなと思って。関心あったら来るでしょう、普通。

私らは、そのまま、あと4年か5年になったら、そらいてへんようになるかもわかりませんよ。そうやけどもまだ、若いPTAで今、現在動いてはる人は、例え1人でも2人でも、校区から出てきて見るのは普通とちゃうかなと思って、それで一貫校のあれは反対や反対や言うて。そんなもん反対するほうがおかしい。わしはもう、それは思いました。もう爆発しそうになって、会長、わし、爆発しそうや言うたら、服部さん抑えときなはれって言われて。

中学校一貫校でよってきて、ああやこうや言うて、言うてはって、それは反対も、それは意見があるのはわかる。意見があるのはわかるけどね。前向いて話をするんやったらわかるけど、何回言っても、いつもそこで足踏み。この間みたいなきでも誰も来ない。それで偉そう言うことないわ。本当に。もうつくづく、そない思うたわ。もうこんな恥ずかしい話ないなあと。まあ、そういうことです。

学校のことで、今のまちづくりと、それね、今宮中学ね、ものすごいようになってます。あのね。あの、今宮中学言うたらね、七、八年、もうちょっと前ぐらいからね、もうそこらじゅうごみだらけで、前やったら駅降りたら小便臭くて、そういう駅でしてん。今はだからそなん一つもないです。ものすごいきれいになってます。のぞきに行ってください。もうあそこの校長先生だとか地域の人やとかも一生懸命になってやりはって、今ほんまに、学校の周りほこり落ちてないですよ。この間見てきたら。一回のぞきに行っておあげてください、暇があったら。

すんません。そういうことです。

○田中委員

ありがとうございます。すごい新たな情報をいただきまして、やはりおっしゃっ

てくださったように、あれですよ、それってやはり、わがまち意識を育てる一番の根本だと思います。きれいなまち、人がずっと関心を持って見続けているまちってというのが、大事だというふうなのは、やはりわがまち意識に起因するのかなというふうに思うんですけどね。4人ですか。

○服部副部長

はい。格好悪い話でしょ。

○田中委員

ちょっとね、PTAの方ね、残念ですよ。

○服部副部長

もう、区長のところなんかみんな話いていると思いますから。聞いておられると思います。

○田中委員

すごく、何か悲しい話。

○服部副部長

悲しい、情けなくなりました。

○田中委員

でもそれちゃんと、私たち受けとめなあかんのですよね。

○服部副部長

そうです。そやから今、まちづくりのほうの、こっちのほうの、未来部会やけれども、私、関係ないことやけれどもみんなにやっぱり聞いといてもらおうと。

○田中委員

いやいや、関係ないことないです。そうですね、今ちょっと私もショック受けて、この後の進行がちょっと、私、危ぶまれる状況です。せっかくの機会です。

○服部副部長

うん、そなんやったからね。

○田中委員

それで反対はないやろっていう話ですよ。

○服部副部長

そうです、出てきて反対する。ほんで前向きに、どういうふうにしていったら小中一貫校、うまいこといくかというて、その話する場やったら何ぼでも話は、1時間でも2時間でもしてもいいけれども、その言うてる尻からもう、4人では話ならん。それも、肝心の一貫校になるっていう学校の子は誰も来てなくて、西生野だけですよね。林寺さんにしても、生小さんにしても、舍利寺さんにしても、誰も来てなかったからね。だから、いや、うちは仕事忙しいから行かれへんかったんやって言われたら、それはそれまでです。何も言えません。言われへんけど、格好悪い、恥ずかしいなあと思って。それだけです。

あんま、静かなってもうた。

○田中委員

いやいや、ちゃんと受けとめないといけないというところで。

○川上部会長

やはりもうちょっとみんなも自覚してもらわないとね。

○服部副部長

みんななりますよ、一貫校に。田島さんも、ちょこっとそんな話も出てきてるし、実際はどうか知りませんが、田島さんもそういう話が出てきてるし。現実的に今、西生野は、生中さんはもう、そうやって出てきてるんやけど。やはり自分の身になって話をせんことには何ぼ言うてもあきまへんわ。はっきり言って。

○川上部会長

そりゃそうですよね。

○服部副部長

わしらも、大阪生まれの大阪育ちで生野生まれに生野育ちやから、言葉は悪いけれども、あんまりにも格好悪いなと思って。まあそれだけです、すんません。

○山口生野区長

ちょっとフォローというかね、私たちなりの受けとめをちょっとお話をさせてもらいます。まず言っていていただいてありがとうございます。申し訳ない。そして、行っていただいたこともとても感謝をしています。ぎりぎりまで広報板に貼ったり、私もいろいろ、インスタとか、いろんなところで宣伝もし、学校で配り、いろいろやったんですけれども、結果的にそういうことになりました。

小中一貫校に対する関心というか、最近やはりこれね、長引いてるんです。平成25年度ぐらいから話し合いを初めて、ワークショップもやり、説明会も何度もやり、準備会やりというところで、もう何か、関心がどんどん離れてしまっている。参加者がどんどんいろんな意味で減っているというところは大きな課題だと思っています。

いい学校をつくりたいと思ってますし、学校づくりはまちづくりそのものだと思っています。そして当然ですけれども、跡地のことも私たちは、生野区には何個跡地が残るといふことで今調査をやり、どうしたらまちの魅力になるような土地活用があるかというところも議論をしているところなんで、そういったことに熱い思いを持って学校とかまちにかかわっていただいていることに感謝もしますし、どうしても学校にこどもがいる状態で見にいこうとすると平日にしかならないというところで、保護者の方たちで共働きの人であるとか、働いていて来られなかった人たちもいってはいるんだろうとは思いつつも、まあやはり、ちょっと少なかったのも、どんな状況だったかとか、見学に行ってもどこかで、校長先生のお話があったとか、そういったところは情報発信をしていきますけれども、やはりもっと来てほしかったですし。あと、出前講座というのもやっていて、2人以上いたら説明に行きますと。こう、どんな学校づくりにするかって言うてるんですけど、なかなか1件ぐらいしか今のところ応募もないので、そういったところ、もっと広めていきたいと思っています。

熱い思いはしっかり受けとめましたし、悲しかったのは私も寂しかったし悲しかったので、それはしっかり受けとめたいと思っています。ありがとうございます。

○田中委員

ほかに何か。

○山本委員

この、「居場所」と「持ち場」があるまちへ、見てたんですけど、このイラスト見てまして、これできたらやはりおじいさん、おばあさん、一人ずつでも書いたほうがええんちゃうかなと。もっと年配の人。孫とおじいちゃんやね。もうちょっと目立つように。

○田中委員

はい、ありがとうございます。この、私もこれ見て、すごいいろんな人たちがいるということを実感できるような絵やなあっていうふうに思ってます。

一時期、行政の方がつくるこういう広報のチラシって、何か、決まったようなスタイルばかりだったんですが、これ、すごくいろんな人が入っているなというイメージがちょっとしているんですけど。おじいちゃんを出してくださいと。おじいちゃんの存在感をもっとつくってくださいということなんです。

はい、ありがとうございます。

まだ出ていない項目が、空き家の問題とか、ずっといろいろと、長屋の話とかも今まで出てきたと思うんですけども、その話であるとか、あるいは地域活動協議会の支援であるとか運営、促進、自立運営促進に向けてというようなことが、ちょっとご意見が、少しなかったかなというのと。

あと、ものづくりですね、ものづくりについても、これも生野工業高校のインターンシップの開催で3名来てくださったということなんですが、これももう少し人数、参加者を増やしたらどうかというご意見もご担当の方からお話があったんですけども、何か、全般的にこれはこうじゃないかとかっていうところがございましたら、何かお聞かせいただければと思います。

ものづくり百景も、今どれぐらいですかねというご質問がちょっとありまして。これについてはもう百いきましたねっていう話がありましたけども何か。

○中村地域まちづくり課長

資料にもちょっと書いてますけども、一応今71に今回プラスあって、6個で77。ただ、これ載ってる方が廃業されたりとかして、更新のところもあるんで、ちょっとずつ増えたり減ったりですけども、ただまあ、もうできる限り早い時期には、一旦もう百までしてしまってますね。そこから先、まあ何をしていこうかというふうなことが今後の課題なのかなと思っています。

これはすごくイラストというのをを使って、親しみやすい形でものづくりのほうに興味を持っていただけるというふうな形でつくらせてもらったんですけども、これ以降の展開をどうしていくかというのは一つの課題で、これは我々も検討しているところです。

やはり、生野工業のさっきの話もごさいますけれども、やはり情報発信。亀田委員からもありましたが、チラシとかでもどうやって伝えていくかというのが大事なかなと。そのための手段としてのこの百景があるんですけども、これももっともっていろんな方にもやっていって、生野区というのが、いかにものづくりが盛んかと。今テレビとかでも結構ものづくりのドラマがかなり評判がいいとかあります

んで、こういったものをきっかけにしながらいろんなことも考えていけたらなあと思っております。

○田中委員

ほか、ございますか。

○川上部会長

東大阪にとられんようにね。生野区も頑張らないけませんね。

○山本委員

東大阪自体がね、逆にどんどん減っていつているから、僕も心配してますよ。

○川上部会長

だんだんね。

ちょっと最後よろしいですか。

○田中委員

はい、お願いします。

○川上部会長

まち協、これ、ちょっと難しい問題やと思いますけれども。

あの、まち協絡みのことなんですけれども、支援いただいているものは、予算的なこともございましょうからこれはある程度申請してそのまま、75%ということだけでいただいており、それで運営しているわけなんですけれども、ただ、私いつも連長やってまして。連合振興町会と、そのまち協と、もうこれ、何か一本化してほしいというのが私の希望です。

それともう一つは、非常にこれは難しい問題やと思います。いろいろわかっておりますけれども。それともう一つ、役割が今、振興町会として女性部がありますよね。それで今、なぜかもう一つ、これは戦前から残つとるような流れのようなものなんですけど、女性会というのがあるんですね。女性会というのはもともと婦人部ということだったんですけれども、なぜこれ、一つにならないのかなど。

それともう一つは、防災のほう、防犯のほうもそうなんですけども、振興町会で防犯部長がおりまして、防犯委員がおります。そうしたら最近、まち協のほうのあれで防災リーダーっていうのができてきまして、防災リーダーが最近ちょっと増えてきまして。女性も入れということで女性部長も、あじさい防災パートナーということになっております。防災リーダーこれで一挙に何か30名ぐらいになってるんですよ、私のところではね。ほんで、そこへプラス、防犯委員が結構前からたくさんおるんです。何かその、防災に関しても招集するときどっちを招集したらいいんか、ということもありますし。合同にしたらものすごい多い数になるし、ちょっと整理しようがないという状態にあるんですけれども、その辺どういうお考えなんですか。

○中村地域まちづくり課長

ええとですね、まず、まち協自体は言ってみますと、一つの財布と言いますか、いろんな学区の区内の団体さん。それと団体だけじゃなくて個人も含めて、一つの大きな組織という形。その中に連合もあれば、地振もあれば、地域社協もあるし、青指・青福とかもうさまざまなものがあると。そういった方々が、いろんなことを

一緒になってやっていくための一つの器という形でやっています。

その中で、それぞれがお互いにいろんな役割を果たしていただいで、地域の方が解決するというのが基本の考え方です。ですからどちらがという、一本化というわけじゃなくって、まあ言ってみたら、一つなんですよね。形的には。ただ確かに、わかりづらい言うたらわかりづらい。ただ、まちづくり協議会という形でしたら町会に入らなくてもメンバーにもなることもできるというようなこともあるんで、よりちょっと大きな器かなと思っています。

どっちがどっちというわけじゃなくって、それぞれがいろんな活動を一緒になってやっていただく中でいろんなことができていくのかと思っています。

そのいろんな役職ですね、防災リーダー、防犯とか、いろんな。こちらのほうは確かに大阪市全体でも、いろんなことをお願いし過ぎやなあというのがございまして、そういった中で、役員とかこれはもう一旦廃止しようかとか、整理して別のものと統合しようかとかいう話とかもありまして、整理を今やっている最中で、できる限り地域の皆さんに負担の無いような形。それを今考えているところです。

今、防災リーダーと防犯は、これ非常にどっちがどっちかというたら難しいですし、防災リーダーの服を着ていただいて防犯のパトロールも出ていただいたりとか。異論もあるんですけど、これはお互い連携していただいてというようなことで、それぞれの中で必要な役割を果たしていただけたらなと思っています。何かあったら必ず全員集まらないといけないというわけじゃなくって、それぞれ、思い思いの形で参加いただいて、一緒になってやっていただきたいなあと思います。

ただ、無理なご負担はお願いはできないかなと。あくまで地域の皆さんが一番やれる形でやっていただくのが一番かなとは思っています。と言いながらいろいろお願いはしているんですけどね。そのあたりはいろいろとまたお願いしたいと思えますし、貴重なご意見ですので、またそういった意見をいただきながらまた、いろいろ考えていけたらなと思っています。ありがとうございます。

○田中委員

どうぞ。

○山本委員

防犯ですけども私は、防犯は生野区に防犯協会ってあるじゃないですか。

○川上部会長

はい、ありますね。

○山本委員

私たちの防犯というのは、東桃谷支部。せやからもともとは向こうの支部と私は理解しとったんですよ。もちろんその支部の働きかけで、地域のことをいろいろ回ったりとか、そういうあれやから、もちろん一つにしてもええと思うんです。今度一つにしたらほんなら皆、向こうの防犯の支部になるのかとか、またそういう問題が起きてくるんちゃうかなと。だから、防犯も防犯協会のほうへ、年会費か何かわかりませんが、多分納めていると思いますしね。その辺のことが、そやから一つになるのはなかなか難しいんちゃうかなと。ということになったら向こうの防犯協会というのがなくなってしまうかもわからんしね。

○川上部会長

あえて、僕、提案したわけなんですけどね。ほんまはこんなん、ちょっと無駄やと思うんですよね。どっちか一つでまとめてしもうたほうがええんやないかと。まあ人材の問題もありますし、いわゆる予算の問題も入ってくるでしょう。予算の問題もあるでしょうしね。そういった面でまとめたほうがいいんじゃないかなということちょっと提案させてもらったんですけど。

○山本委員

私もいろんな面ではそういう意見にはできたら賛成したいなと思います。とにかく一度やり始めたらなかなか変えるいうと難しいんですよね。本当に。やめるのも難しいし。

○川上部会長

最初からあるほうは根強くあるしね。

○田中委員

ありがとうございます。徐々にやっていければいいかなと思いますけれども。

いろんな話が出てきまして、本当に皆さんの御協力でいろんな話が出てきて、今日も楽しい思いをさせていただいたかなと思うんですけども。何かこれだけは一言、言いたいなっていうことがございましたら言っていただい。

今日はもう。ということで、皆さん、いろいろご意見いただいたと思いますので、もうこれでまた次の会議に向けていろいろまたご意見出していただきたいと思いますので今日はとりあえず意見交換を終了させていただきたいなと思います。

お返しをしたいと思います。お願いいたします。

○川上部会長

田中委員ありがとうございました。

○田中委員

部会長にお返しいたします。

○川上部会長

ありがとうございました。どうも。では事務局から連絡事項がございましたらお願いいたします。

○橋本企画総務課長

田中先生、また委員の皆様、大変ご議論お疲れさまでございました。本日いただきました多くのご意見につきましては、次の全体会で部会として報告をしていただくことでほかの部会の委員の皆様にも共有していただきたいというふうに考えております。

報告内容につきましては事務局でひとまず整理をさせていただきまして、部会長や本日進行を努めていただきました田中委員と調整をさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

事務局からの報告は以上でございます。

○川上部会長

それでは、本日の会議を踏まえまして、山口区長から一言お願いいたします。

○山口生野区長

皆さん、いろんな意見をありがとうございました。

1点だけ、ちょっと、このイラストについて説明をさせてください。これは私がたまたまロハスフェスタというイベントに行っておりましたときに、出店をしていたイラストレーターの絵に一目ぼれをして、これをぜひ生野区の将来ビジョンの表紙であるとか、使わせてほしいということをお願いをしたものなんですね。

何で私がこれを生野区の将来を、何かこうイメージしたイラストというふうに捉えたかという、多世代の人がいる、おしゃれ過ぎない。何というんですかね。何かきめ過ぎてないっていう感じですか。何か生野っぽい温かい空気が流れてる。で、まあみんなが笑顔であるということで、山本委員のおっしゃる高齢のおじいさまは、私は右端のジーンズの若々しいこういう高齢の方がいてもいいかなというところで解釈もしてたんですけど、つけ加えることがちょっとできませんので、それはご理解をいただきながら。

また、実はこのイラストレーターさんは、糸魚川市に住んでいます。糸魚川市はクリエイターを移住してもらうために空き家をただで提供してしまして、それをリノベーションして、この夫婦は愛知県の方なんですけど、その糸魚川市に移住をして、そこでまちの広報紙のイラストを描いたり、ポスター描いたり、あとは地域の地酒のラベルの絵を描いたりしています。今大変人気があって、オーダーしたら1年待ちみたいな方たちなんですけれども、機会があったら生野区に来て、生野の絵を描いてほしいという願いはしています。そのときは何かぜひ、高齢の方から、そして、できればやはり多文化のまちですので、外国の方も含めて描けたら、描いてもらえたらいいなあというふうに思っています。ちなみにこれはこの真ん中の若いひげの人と、ストール巻いてる人が夫婦で、その2人が夫婦でユニットで絵を描いているという、イラストレーターさんです。

私はこのポスターもつくりまして、大阪市役所のエレベーターの中に2枚、12月末まで貼ってもらっています。生野区変わったなというか、何というのかな、何かいろんな見せ方をしたいというふうに思っています。今までの生野区のイメージと違う。例えばだから広報紙もきっと何となく今までの生野区とは違うような雰囲気。おしゃれ過ぎず、きめ過ぎず、でもやはりちょっとセンスがいいなと思えるものを発信したいと思っています。

いろいろ情報発信をするにしても、根っこであるところの安全であったり安心であったり、そして教育環境が充実していたり、住居の環境、要は空き家対策がしっかりなされているということは基本だと思っています。また、地域のコミュニティがしっかりしているということも大事だと思っています。私も民間において、また役所においてという形で、自分自身も住んでいる地域の、いわゆる、まち協に入っているんですね。町会は町会長に町会費払おうとしたら、そこはいわゆるマンションが、1階があって、オートロックで入れないので、入ってもらっても回覧板回されへんから、とりあえず町会費はええわって言われて、そのかわり、活動はやれっていうのと、ええ年なったら町会長やれみたいなことは言われてまして。いやまあまあ、やるけれどもと思いつながら聞いてはいたんですけども。

で、地活協で子育てサロンのボランティアのメンバーとして入っています。そこ

でいつも思うことは、やはりこのまちの活動にいかにかに新しい人を巻き込んでいくか。いつも同じメンバーがふれあい喫茶をやり、食事サービスやり、夏祭りで下働きをし、防犯行き、防災行きてやっていうのは限界があるので、若い人たちにどうやって入ってもらうか。そしてそのための役割の整理であったりとか、ご指摘のあった部分というのもしやっていかないといけないと思っています。

今日いただいたご意見また、中でもいろいろと施策に反映もしていきながら前向きに進めていきたいと思っていますので、今日の貴重なご意見、本当にありがとうございました。またよろしくをお願いします。

○川上部会長

どうもありがとうございました。

では、閉会したいと思います。区政会議は生野区の将来について区民同士が率直に情報交換をしたり意見を語り合える場であります。また、11月29日の木曜日には、第2回全体会議の開催が予定されておりますので、今後も活発なご意見をよろしくお願いいたします。

それではこれにて本日のまちの未来部会を終了します。

皆さんどうもお疲れさんでした。ありがとうございました。